

ら い 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 113 2月号

2015年2月1日 発行

たつの市立図書館

龍野図書館 TEL(0791)62-0469

新宮図書館 TEL(0791)75-3332

揖保川図書館 TEL(0791)72-7666

御津図書館 TEL(079)322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>



携帯専用サイトへは、
左のQRコードから
(<https://www.lib015.nexs-service.jp/tatsuno-city/mobile/index.do>)

読書と私 No.105

「本と出合うとき」 揖保川町 岩井 忠彦

本が増えて置き場所に困ります。不要なものは捨てようと思っても、背表紙を見るだけでさまざまな記憶がよみがえって、なかなか整理できないものです。

清代中国で出版された石版の『春秋』左氏伝杜林合註。学生時代に古書籍店で見つけた時、予想外に安かったので、値段の0の数を友人たちに確認してもらいました。食費を削って本を求めた、貧しくても学ぶ喜びに溢れていた頃の友の顔が行間に浮かび、飽食の時代の怠け心を戒めてくれるように思えます。

背表紙の独特の赤い色が本棚で存在感を示す、東ドイツ（ドイツ民主共和国）ディーツ社の出版物。マルクスやエンゲルスの著作の出版で有名だったこの会社は、ベルリンの壁の崩壊の後、ひっそりと消えました。いささか雑な装丁や粗末な紙質が、世界史のうねりを語っているようです。

悲しい出会いもありました。昔、神田の古書籍店で、明代中国の異端的思想家・李贄の『焚書』を見つけました。余白に朱字で、びっしり書き込みがありました。大塩平八郎の筆跡でした。生活に苦しむ庶民を救おうと決起した、彼の思想の軌跡をたどるのには絶好の史料です。しかし、とても手が届かない値段でした。それでも諦めきれず、隠すように本棚の一番奥に押し込んで、何度も何度も振り返り、後ろ髪を引かれながら帰った時の無念さが、昨日のように思い出されます。あの本は今、誰の机上にあるのでしょうか。

本は著者の魂に出会う所、版木を彫り活字を組み装丁をしてくれた人たちとの触れあいの場、読む者の心の糧。提供してくれた多くの人への感謝の気持ちとともに、今日も次のページを開きましょう。



※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『「ななつ星」物語』 一志 治夫 著 小学館



定員30人の豪華寝台列車「ななつ星in九州」を手がけた人々の熱き想いと挑戦の物語である。社長唐池は「九州を元気にする列車」を掲げ経営会議に上げた。総工費30億円で採算はとれるのかと、不穏な空気が漂うも運行開始

日だけが2年先に決まった。

デザイナー兼総監督の水戸岡は幾度も唐池と見解をぶつけ合い「懐かしくて新しい豪華列車」というコンセプトに行き着いた。3泊4日70万円の旅にふさわしい職人技や、九州の究極の食とやすらぎと歴史を凝縮したものを追及する唐池の情熱に周囲は次第に賛同していく。

唐池は乗車後最初に口にするものに驚きと感動を求め、鯨の名店「やま中」に車内で握ってほしいとお願いするが断られた。唐池は折詰とその場で握る鯨との違いや「やま中」が提供するしゃりやネタのよさを何度も説得した。とうとう山中は承諾した。水戸岡は、作業しやすい付け台をデザインし、大きな窓の前に置くことにより白い調理服の板前が見えるようにした。

山中は客の好み、アレルギー、わさびの有無、しゃりの大小等を事前に聞き準備した。ネタにあわせて器も変えた。

内装の障子は福岡の大川組子、洗面鉢は有田焼の名門第14代柿右衛門、フロントグリルは真鍮の金メッキ、研鑽をつんだサービスクルー等、極めつくした。

すべてにおいて「手間こそが感動」と妥協を許さない唐池哲学があった。

浪漫を掻き立てられる一冊である。

(龍野図書館 石井)

「ななつ星」車内の椅子の製作を手掛けた木工家具作家、むかいやま 迎 山直樹氏による椅子の展示と講演会を開催します。

「ものをつくるということ」

【展示】

期間：2月7日(土)～3月1日(日) ※休館日を除く

場所：新宮図書館

【講演会】

日時：3月1日(日)

14時～15時30分

場所：新宮図書館

対象：中学生以上

定員：40名(先着順)

申込：新宮図書館(電話可)



トピックス 「読むこと」そして「生きること」

子どもは絵本を読んでもらうことで、主人公となっておはなしの世界を自分の体験とします。

今月は、そうして培った想像力や、物語を読むことで得られる“生きる力”についての講演会と、読む力を育み、言葉を鍛え、ドイツで活躍されているたつの市出身の翻訳家の講演会を開催します。

講演会

「読む力が未来をひらく」

物語を読むことは、子どもたちの生きる力につながります。質のいい読書とは？物語を読むことで子どもたちの心に何が起るのか？

子どもと本に関わるすべての方・興味のある方は是非ご参加ください！

日時：2月14日(土)

13時30分～15時30分

場所：アクアホール3階研修室

講師：脇 明子 氏

(ノートルダム清心女子大学 名誉教授)

対象：一般

定員：35名(先着順)

申込：揖保川図書館(電話可)



講演会

「翻訳家が住んでみたドイツ」

ドイツ在住の翻訳家 岡本朋子さん(新宮出身)から、ドイツの暮らしや文化、翻訳家としての仕事の魅力についてお話を伺います。

日時：2月15日(日)

13時30分～15時

場所：新宮図書館

講師：岡本 朋子 氏

(ドイツ語翻訳家)

対象：中学生以上

定員：40名(先着順)

申込：新宮図書館(電話可)



おすすめする子どもの本・105

『大雪』 ゼリーナ・ヘンツ 文 アロワ・カリジェ 絵 生野幸吉 訳 岩波書店

小さな村に大雪が降り積もる「そり大会」の前日、フルリーナは兄のウルスリに言われ、そり飾りを買いに、ふもとの村の糸屋まで寒くて遠い道に行くことになりました。

けれども、そり飾りができて帰る頃には雪がひどくなっていました。動物達が吹雪を避けて逃げ込む“あらしの木”によくたどり着いた時、雪崩がおこり、フルリーナは大雪の中に埋もれてしまいました。

ウルスリが帰ってこない妹を心配して探しに行くと、“あらしの木”は折れて、鹿の角のような折れ枝と裸の大枝ばかりになっていました。枝が雪から突き出たあたりで毛糸を見つけたウルスリは、糸をたぐってフルリーナを見つけました。フルリーナはその枝を拾い、兄に背負われ帰ります。家に帰ると2人はそりを飾りつけました。

そり大会では2人のそりが一番見事でした。ふさふさの毛糸がたくさん飾られ、そ

りの先頭にはあらしの木が飾られていたからです。

冬が過ぎ、2人は助けてくれた“あらしの木”のかわりに新しい若木を植えました。

落ちていた色調の線描画が、美しく厳しいアルプスの自然に暮らす子ども達の姿を伝えます。雪嵐に遭遇したフルリーナが無事に助かる結末に心から安堵すると共に、再び“あらしの木”を植えに行く場面が余韻を残します。読んであげるなら6歳から。
(揖保川図書館 菅尾)

『サム・ピッグだいかつやく』 アリソン・アトリー 作 童心社

こぶたのサムは、3匹のきょうだいと父親がわりのあなぐまのブロックさんと暮らしています。サムたちの家のマントルピースの上にはみんなに時間を教えてくれる時計があり、その時計のねじをまくのは、家中で一番年上のブロックさんの仕事でした。

時計が大好きなサムもねじをまいてみたくて仕方ありませんが、ブロックさんは時計は気むずかしいものだから「わしのほかは、だれもねじをまいてはいかんよ」と言い、さわらせてもらえません。

ブロックさんが留守のある日、サムは椅子の上に乗って時計をとり、力いっぱいねじまきを回しつつづけました。サムにぎりぎりっとねじを巻かれてすっかりお腹が痛くなった時計は、ぐるぐるぐる一とうなって時を打ち

始めました。あっという間に一日中の時を打ってしまっ、あしたの分もあさっての分も打ちました。針は目まぐるしく、ぐるぐる回り、かちかちいう音がものすごく早いので、サムたち4匹は時計に追いつこうと、すごい勢いで走り回って、寝たり起きたり、料理したり食べたり、仕事をしたりしますが、そのうち時計は何もいわなくなりました。時計を壊したと兄さんたちに責められたサムは、新しい時計を探しに出かけます。時計にふりまわされる4匹と、不安な気持ちで出かけたサムが、素敵な時計を手に入れるまでの様子がのんびりとした田舎の自然を背景に描かれています。(サム・ピッグとかっこう時計)

きょうだいと暮らすサムの日常の話が他に4つあり、続編に『サム・ピッグおおそうどう』があります。小学校低学年から。
(御津図書館 山本)



各館の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

館 名	行 事	対 象(上段) ・ 時 間(下段)	2月の予定
龍野図書館 TEL(0791) 62-0469	●えほんのじかん	1～3歳児、保護者	14日・21日
		第2・第3土曜日(11時～11時20分)	『こいぬのくんくん』他
	子どもの本を読む会	一般	12日
		第2木曜日(10時～11時30分)	『オオカミに冬なし』リュートゲン 著
	読書会	一般	13日
		第2金曜日(10時～11時30分)	『穴』小山田 浩子 著
新宮図書館 TEL(0791) 75-3332	●えほんのじかん	2～4歳児、保護者	9日・23日
		第2・第4月曜日(11時～11時20分)	『きらきら』他
	■おはなしのじかん	5歳児～	7日・14日・21日・28日
		土曜日(10時15分～10時45分)	『てぶくろがいっぱい』他
揖保川図書館 TEL(0791) 72-7666	●えほんのじかん	3～5歳児、保護者	14日・21日
		第2・第3土曜日(10時30分～10時50分)	『もこ もこもこ』他
	■おはなしのじかん	小学生以上	14日・21日
		第2・第3土曜日(11時～11時30分)	「ねずみのすもう」他
	読書会	一般	20日
		第3金曜日(10時～12時)	『母』三浦 綾子 著
御津図書館 TEL(079) 322-1007	●えほんのじかん	0歳児～、保護者	8日・15日
		第2・第3日曜日(11時～11時20分)	『とらたとおおゆき』他
	読書会	一般	10日
		第2火曜日(13時30分～15時30分)	『フリーター、家を買う。』有川 浩 著
	古文書を読む会	一般	14日
		第2土曜日(13時30分～15時30分)	古文書の解説